

新規需要拡大が鍵

能代で講演会 木材産業の将来展望



木材産業の将来性を考える講演会が5日、能代市文化会館で開かれ、有識者2人が木

材の市場拡大に向けた新たな動きについて語った。

東北森林管理局長の箕輪富男さんは本県の木材産業を巡る動きとして、合板用素材の

需要拡大やスギの価格上昇を挙げた。一方で住宅の新築は

人口減少や原価高騰の影響で減り続けると見込まれ、木材

の新規需要を広げることが欠かせないと強調した。

木材の新たな用途として、

木材産業の将来について考えた講演会

中高層ビルや店舗、交流施設などに木造の新築物件が増えていることを紹介。リフォーム市場の規模拡大や住宅部材のさらなる国産化、木材活用を推進する協定制度などが今後の鍵になると述べ、「能代から新しい木のまちづくりを進めてほしい」と結んだ。

このほか、能代市出身の法政大名誉教授・小川孔輔さん(経営学)が、製材最大手の中国木材が市内に新設した能代工場をテーマに語った。

講演は能代木材産業連合会と、有識者を招いた講演会を開いている市内のグループ「市民おもしろ塾」が主催。約100人が聴講した。

(佐藤辰)